

日銀神戸
支店長の
視点



別所昌樹氏

もうすぐ桜の季節です。当地で桜の名所をお尋ねすると、それぞれにお薦めを語られます。これまでお聞きしただけでも「日本さくら名所100選」の姫路城、明石公園、夙川河川敷。神戸市内なら生田川公園や王子動物園、須磨浦公園。丹波水上では加古川堤防の桜が絶景だそうです。

国際交流にも桜は一役買っています。例えば、私が駐在していた英国では、日英文化交流桜植樹プロジェクトが始まり、英国全土に約8千本の桜が植えられました。

「さくら」といふ言葉。日銀で働く私にはもう一つ意味があります。日銀は四半期ごとの支店長会議の時に「地域経済報告」を公表しますが、その通称は「さくらレポート」です。米国では、連邦準備銀

「さくら」最前線

行が企業ヒアリング等で得た景気動向をまとめた報告書を、表紙の色から「ベージュブック」と呼びます。日本では、淡いピンクの表紙なので「さくら」です。企業経営者の方々などにお聞きした景況感、需要動向、事業計画、先行きの見方などは、日銀にとって大切な政策判断材料です。

折しも中東情勢悪化で、景気・物価の先行きが見通しにくくなっています。特に物価についてみると、原油・天然ガス施設攻撃やホルムズ海峡封鎖が長引くと上押し圧力となり得ます。一方、このような供給ショックや不確実性が景気を冷やすことを通じ、物価を下押しする圧力が生まれるかもしれません。今のところ物価への影響が上下いずれの方向かを判断する材料は限られますが、日銀本店前の「江戸桜通り」の桜が満開になる4月の支店長会議では、企業ヒアリング等で得た、経済統計には織り込まれていない最新の情報を伝えたいと思っています。